

問題Ⅰの出題意図

出典は、広田照幸著『教育不信と教育依存の時代』（紀伊國屋書店、2005）である。青少年問題や家族問題、学校問題についてのマス・メディアの取り上げ方には問題点があることを、教育社会学者として実際に取材を受けた経験等をもとにしながら論じている。この文章を読み、論旨を適切に把握する読解力および自らの考えを的確に論述する文章表現力、並びに複眼的思考に基づきながらより良い答えを導き出す課題解決能力を問う問題である。

- 問 1 著者の主張を適切に読み取ることのできる読解力と、要点をまとめて論述することのできる文章力があるかどうか等を見ようとしたものである。
- 問 2 与えられた課題に対して多様な視点から考察し、論拠を示しながら説得力のある形で適切に表現する力があるかどうか等を見ようとしたものである。

問題Ⅱの出題の意図

- 問 1 図を客観的に読み取る力、的確に表現する力をみる。
- 問 2 データを多面的な視点から捉え、それに影響する要因を自分の知識や経験を統合して推論する思考力、および自分の考えを論理的に説得力をもって表す文章表現力をみる。受験生の解答として、社会的、文化的、経済的要因、教育や授業のあり方に関する要因、子ども側の要因や自らの個人的体験にかかわること、測定尺度の問題等、その他さまざまな観点からの要因が挙げられることが予測されるが、いずれの要因について論じる場合にも、多面的な思考力、論理的で説得力のある文章表現力を採点の基準とする。